

今年もやります！
ふる総フェスタ 12月23日(土)

楽しいステージやワークショップ、公民館サークルの作品展示を予定しています。詳しいことは12月号に掲載します。

ハンドメイド de クリスマス

手作りのクリスマス作品を募集します。折り紙・手芸・絵画・彫刻 etc. なんでも OK! どしどしご参加ください。

募集期間 11月28日(火)～12月10日(日)

展示期間 12月12日(火)～12月23日(土) (午前中まで)

※展示期間中に図書館を利用した方には投票シール3枚を差し上げます。

図書館
ニギヤカシテクダサイ

第2回 小鹿野町図書館をつかった
調べる学習コンクール

応募総数 **15** 点

今年も力作が揃いました。たくさんのご応募ありがとうございました。審査会は、11月10日です。審査の後、図書館で展示を行います。

展示期間 11月12日(日)～30日(木)

見に来てくださ～いね。

小鹿野町立図書館
図書館だより 2017 11月号 No. 31

おはなし
プチ

11月18日(土)

小さいお友だちのためのおはなし会です。
 ●えほん
 ●かみしばい
 ●てあそび

おはなし会
 両神ふるさと総合会館 2F視聴覚室 10:30～

11月25日(土)

小学校低学年までのおはなし会です。
 ●絵本
 ●紙芝居
 ●かんたん工作

移動図書館

11月21日(火)

■10:20～10:55 三田川小学校
 ■11:15～11:45 三田川10区公会堂
 ■13:00～13:35 長若小学校

※悪天候の場合は、巡回を中止することがあります。
 ※貸出には利用カードが必要です。お持ちでない方は、その場で発行します。身分証等をお持ちください。

ブックスタート
 ブックスチャレンジ事業

6ヶ月&1歳児
11月30日(木)

2歳児
11月28日(火)

健診会場(児童館) 13:30～
 絵本プレゼント & 読み聞かせ講話

新着資料案内

今月も、たくさんの新着資料が入りました。詳しくは図書館HPの新着図書から検索いただくか、館内の一覧表をご覧ください。リクエストもお待ちしております。

MAP

両神ふるさと総合会館 小鹿野町立図書館

両神庁舎

両神小学校

R299

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

11月

開館時間 本館 10:00～18:00
 分室 9:00～17:00

休館日 ■本館 ○分室
 臨時 本館 11/3(金) 両神ふるさとまつり
 休館 分室 11/18-19(土・日) 郷土芸能祭
 年末休館 本館・分室 12/29-31(金-日)

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

発行・編集 小鹿野町立図書館

本館 〒368-0201 小鹿野町両神薄 2713-1 両神ふるさと総合会館2F
 TEL: 0494-79-0150 FAX: 0494-72-3206

分室 〒368-0105 小鹿野町小鹿野 167-1 小鹿野文化センター 2F
 TEL: 0494-75-0063 FAX: 0494-75-0032

E-mail: tosyokan@town.ogano.lg.jp
 https://www.town.ogano.lg.jp/kakuka/tosyokan/tosyokantop.html
 QRコードからHPへアクセスできます！

秋も深まり、朝夕冷え込む時期になりましたが、小鹿野の秋は歌舞伎で盛り上がるアツい季節でもあります。11月の図書館だよりは、どどーんと『歌舞伎特集』をお届けします。歌舞伎のこと、「よくわからないなあ」という人から、「やっぱこうだいな～」と思う人まで ずず ずいーっと 手に取っていた だけのような本を選びました。

物語を読む

カブキブ! 1～6巻
 榎田 ユウリ著/角川文庫 BFエ
 高校生の来栖黒悟(クロ)は、歌舞伎が大好き。学校で歌舞伎同好会を立ち上げようと友達や演劇部員を勧誘していく。こんな青春したかったなあ。ポップで斬新なカブキ部物語。

狂乱廿四孝 (きょうらんにじゅうしこう)
 北森 鴻著/東京創元社 Fキ
 澤村田之助は病に侵され四肢を切断することに。それでも舞台復帰を遂げ、江戸は沸いた。そんな中、田之助の周りでは不可解な連続殺人事件が起きる。

仲蔵狂乱 (なかぞうきょうらん)
 松井 今朝子著/講談社 Fマ
 江戸の歌舞伎役者中村仲蔵の物語。孤児から成り上がり、頂点に登りつめた波乱の生涯が熱い筆致で描かれる。第八回時代小説大賞受賞

きのね 上下
 宮尾 登美子著/朝日新聞社 Fミ
 歌舞伎の大所帯へ奉公にあがった光乃。御曹司・雪雄に健気につくすが、仕打ちに耐える様は壮絶とも言える。梨園という名の異郷が冷静に詳細に伝えられる。

歌舞伎絵巻
 橋本治 文 岡田嘉夫 絵
 /ポプラ社 YAE/A
 歌舞伎演目の原作を読むなら、このシリーズがオススメ。橋本治氏の現代語訳と、妖艶な岡田氏のイラストが見事。仮名手本忠臣蔵・義経千本桜・菅原伝授手習鑑・国性爺合戦・妹背山婦女庭訓の全5巻。

歌舞伎の楽しさを読む

歌舞伎の化粧
 長谷 一美著/雄山閣 774ナ
 坂東三津五郎が序文で語る化粧への思い。華やかな歌舞伎を支える陰の努力。「役に入魂する瞬間」を捉えた連続写真がその魅力を証明する。

歌舞伎の解剖図鑑
 辻 和子著/エクスナレッジ 774ナ
 イラストで小粋に読み解く歌舞伎とはじめ。歌舞伎を楽しむツボや話のあらすじまでわかりやすく大解剖。初心者におすすめの歌舞伎の基本の「き」。

日本の伝統芸能を楽しむ [1] 歌舞伎
 矢内 賢二著/偕成社 K772ニ
 歌舞伎を調べるキッズにオススメ。舞台や音楽、様々な道具など、歌舞伎の全てをまるっと解説。役者と役者を支える裏方が、協力して歌舞伎を「作りあげる」ってことがわかる!!

小鹿野歌舞伎の魅力を読む

小鹿野歌舞伎の魅力
 小菅 光夫著/まつやま書房 S386コ
 都会の暮らしで思い浮かべたのは、夜の闇にぼかり浮かんだ祭りの歌舞伎舞台だった。帰郷した筆者が感じた小鹿野の良さ。歌舞伎を見つめる視線にその情感が現れている。全篇にちりばめられた木版画も見ごたえあり。1993年発行。

小鹿野歌舞伎写真録
 山口清文・写真
 小鹿野歌舞伎後援会 編集・刊行 /S386オ
 小鹿野歌舞伎の1年と歌舞伎を支える人たちの情熱を収めた記録写真集。「町じゅうが役者」のフレーズどおり老若男女様々な小鹿野町民がかぶく。裏方もまた然り。町内を駆け巡り、その姿を追いつけた写真家山口清文氏の功績も読み取って欲しい。写真は限りなく美しくわが町はこんなに豊かな町だったのか、と気づく。

イラスト・題字 いでうらゆみ

10/27～11/9は読書週間
 第71回読書週間 標語「本に恋する季節です！」



西の横綱

小鹿野歌舞伎 立役者

山本正実さん

プロフィール・東京都練馬区出身。学習院大学卒業後、1982年に小鹿野町役場に学芸員として入庁した。町教育委員会社会教育課。現在は行政専門員として活躍している。第四十五回埼玉県地方自治功労賞町村部門受賞。

小鹿野歌舞伎と山本さんの関係と言ったら、親子か、恋人か。切っても切れない間柄であることは間違いない。学芸員として小鹿野町に就職した後で歌舞伎と出会い、小鹿野を「歌舞伎で売る」ことに全霊をかけた。現在でも小鹿野歌舞伎のゲートキーパー（窓口、門番、生き字引）を自認する。小鹿野には、山本さんが30年以上努めてくれた様々な財産が貯まっている。



歌舞伎にのめり込んだ理由を聞いたら、「スゴい感動ですわね」と笑っていた。確かに真面目な反面、意外な力ブキ者でもある。2015年入間公演司会

山口さんに聞きました。「山本さんってどんな人？」

山本さんは真面目だね。約束したこと、頼んだことは100%やってくれる。勉強熱心だし、いつ寝てるかと思うよね。小鹿野で夜遅くに電気がついてるの文化センターとスナックの看板ぐらいだよ。公務員半分で残り勉強って感じじゃない？学芸員だから一つのことをずーっとやっていく。それが良かったと思うね。やっていると評価されているのも、次にやっていこうとする原動力になっているんでしょうね。



小鹿野といえば歌舞伎、ですが、有名になるには歌舞伎に係わるたくさんの方のご努力があったればこそ。そんな特集をお読みいただきますよう、おんねがい申し あ～げ たてまつります～。

あの名子役は今・・・

皆さん、覚えていますか？
今から10年程前、小鹿野歌舞伎に町外にも熱心なファンを持つ不動の名子役がいたことを。その演技は観客の涙を誘い、愛くるしさで舞台を盛り上げました。現在社会人となった小澤早也香さんにお話を聞きました。



重の井子別れ之場
馬方三吉(小3)

——子ども歌舞伎で演技していたのは何歳ごろですか？

初舞台は小学1年生のお天狗様で、中学3年の石川県小松市の公演まで、9年間ですね。

——当時の思い出を教えてください。

歌舞伎は赤ちゃんの頃から母と一緒に父の出ている歌舞伎を見ていました。楽しくやっていた歌舞伎も嫌になったことがあります。でも大きな役をもらって責任の大きさ、裏

で支えてくれる人たちに気づき、気持ちが変わりました。

——今も歌舞伎をされているんですか？

はい。今も津谷木部会に入って年1度は歌舞伎をするのはもちろん、自分のやった役を見てあげたりもしています。

——学んだこと、歌舞伎への思いは？

歌舞伎は裏方がたくさんいて、皆さんの力があってこそ成り立って演じられているものだと思います。今の仕事に就いたのも、歌舞伎

でお世話になった町民の方々へ恩返しをしようと思ってなので、私にとって歌舞伎はすごく大きな存在です。



今は町役場の職員として小鹿野文化センターに勤めている小澤さん



小鹿野で地芝居を撮ろうと思ったのは、東京から一番近かったから。定年の次の日には住民票をね、移したよ。



誰もが山口さんの写真に魅了される。風景も建物も祭りも生活も、それどころか人柄や人情までも写し撮る山口さんのカメラは魔法の道具だと、いつも思う。そんな山口さんの写真が小鹿野歌舞伎の魅力を余すところなく、伝えてくれた。外の人には、小鹿野の良さを。町の人には、我が町の誇りを。今年も郷土芸能祭の会場で、山口さんの写真に会えるのがとても楽しみです。

山本さんに聞きました。「山口さんってどんな人？」

山口さんは世界中を取材された程、力のある方で、年に何度も写真展を行っている方。私達には撮れない写真で小鹿野町を表現してくれる方。歌舞伎は嫌いだけど、やってる人の生き様が好きなんでしょうね。小鹿野移住は、小鹿野歌舞伎の良さを理解してもらえたから、ありがたいです。今は奈倉で独り暮らしですが毎日夕飯困らないらしいですよ。たくさんの人に慕われていて、すごい信頼関係をお持ちなんですね。



写真提供：◎山口清文



東の横綱

小鹿野歌舞伎 立役者

山口清文さん

プロフィール・1944年大阪府生まれ。早稲田大学卒業後朝日新聞社入社。国内外の事件事故や企画取材など幅広く取材に当たる。元写真部長。現在、全国各地芝居連絡協議会議長、元写真部長。保存会顧問、小鹿野町広報大使。

歌舞伎・郷土芸能祭のパンフレット 約半世紀の歴史をたどる

第1回は、昭和46年総合センターの落成祝賀「郷土芸能大会」として開催されました。第8回から郷土芸能祭という名称になり、簡単なプログラムだったものが第13回から演目も

説明したパンフレットの形状になります。会場もこの年まで町民体育館だったのですね。驚くのは、黒沢シズノさんが第1回からかつら方を勤めていらっしやること。初期のプログラムに現役の裏方さんのお名前が幾人も！本当に多くの方に支えられての芸能祭であることがこの資料から読み取れます。平成7年第25回から、現在のパンフレットの様式に。洗い表紙です。



翌年第26回からは、小菅光夫さんの歌舞伎絵が表紙を飾るようになりました。今年も芸能祭会場で小菅さんの原画を展示するそうです。お楽しみに。平成18年は「全国地芝居サミット in おがの」として賑々しく開催され、全国からお客さんがいらっしやいました。山口さんの写真が表紙を飾ったのもこの回から。

貴重な初回からのパンフレットを図書館に展示します。どうぞご覧ください。

期間・11月11日(土)～30日(木)

第47回 歌舞伎・郷土芸能祭

平成29年11月18日～19日(土・日)

会場・小鹿野文化センター

問い合わせ：小鹿野町教育委員会社会教育課 75-0063



秋の歌舞伎に行ってきました！

10月7日奈倉妙見宮秋祭り。歌やダンスで会場は大盛り上がり。



白浪五人男の熱演と奈倉女歌舞伎の女性とは思えない力強さに魅了されました。花かけお返しのカレンダーは住民の手作り。素朴で味わい深い版画の作品集になっています。



DVD

小森祭りと文化を守る会
「絵本太功記十段目尼ヶ崎閑居の場」
「菅原伝授手習鑑吉田社頭車引の場」

10月14日は、両神小森諏訪神社秋祭り。堂々とした白浪五人男。車引では、役柄にあったすばらしい演技でした。遠方から来ていた観光客の方もいて、人気の程が分かります。

